

2023 年度 質疑応答集

質問 1 : ヤングライダー選手権馬場馬術と学生賞典馬場馬術の課目を統一できないか。(学生馬術は 5 課目 A、ヤングライダー選手権は FEI Jr.個人)

学生賞典馬場馬術での実施競技が、断続的に変更されているのは承知しております。ただし、それぞれの競技会の主催団体が異なり、課目の選定趣旨それぞれで異なると考えられます。他の全日本競技同様、ヤングライダー選手権馬場馬術競技では、公認大会で基準を満たした人馬に出場の権利を与える仕組みで選手選考を行っています。世界で戦える選手を国内で育成する目的も含んだ課目選定となっております。ただし、引き続き全日本学生馬術連盟とも意見交換をし、若手選手の育成と活躍の場の提供を協力しあって進められるようにしていきます。

学生大会は、参加する人馬のレベルが相当開いています。

ヤングライダーは、公認大会で最低基準を設けて一定レベル以上の人馬しか出場できないため、競技レベルを高くしても、定員に満たないとしても一定数の参加が見込めます。

このため、意見交換を行ってきてはいますが、ヤングライダーの実施レベルを下げない中では議論が進まないと考えます。

質問 2 : U30 を開催する事になった経緯 (時期、実施課目)

ヤングライダー年齢を超えた選手のステップアップの機会としてとらえています。同世代の選手が出場する機会を作ってほしいというトレーナーからの要望もあって創設しました。年齢区分は、FEI 同様 U25 での実施も議論しましたが、日本の場合この年齢層の選手層がまだ多くないため、新たな区分のスタートとしては U30 で実施することとなりました。今後、年齢層の分布が変化すれば対象年齢の見直しも検討します。

実施する運動課目は、ヤングライダーよりも上位課目で、ベーシックな技術力をつけるためにセントジョージクラスと若い時からトップを目指す選手向けにグランプリクラスの 2 クラスを用意しました。

質問 3 : プログレスチームに入る実質的なメリット (合宿参加など) が感じられない。

2024 年度より、強化領域の充実を図るべく検討を進めております。具体的骨子が整い次第発表をさせていただきます。

コロナ禍以前は、プログレスジュニアを対象とした海外合宿を実施していました。海外の情勢も見ながら、今後受け入れ先の調整が整い次第、復活させていきたいと考えています。

質問 4 : 2022(2023 年)のアジア大会の選考方法についてどのようにレビューしているか。

これまでのアジア大会の成績を分析し、仁川大会では 69%後半を獲得しながら韓国の 71.7%に及ばず銀でした。ジャカルタ大会では、69%台（韓国：68.4%）で金を獲得しました。

杭州大会は、韓国だけではなくインド、中国、香港、タイなどの台頭が予想されたため、目標をメダル獲得としました。過去の成績を分析し、必要となるチームアベレージは 67%と読みました。

これに従い、選考成績 67%以上のチームを編成することは必要条件としました。

結果はご承知の通り、チームアベレージは 67%を超えたものの、メダル獲得はならず 4 位でした。今回の大会では、3 位の香港が 68%を超えていることから、アジア諸国のチーム力も非常に高くなってきており、さらなる技術レベルの向上が求められていると考えています。

質問 5 : 2023 年度の全日本馬場パート 2 が夏季に開催された経緯。

当初、夏季を外す予定でございましたが、他の競技会（国際大会を含む）との日程調整及び会場の空き状況により選択肢が非常に厳しい中で、夏季での開催となりました。2024 年度は、馬事公苑も利用可能となり、競技場の選択肢も広がりましたので、人馬共により良い環境で競技ができるようにスケジュール含めて競技会運営を進めてまいります。

質問 6 : 審判の資格更新を毎年にしてはどうか。

審判資格の更新は、資格委員会の管轄であり馬場本部のみでは決定することができません。現在の更新は 3 年ごとですが、毎年、技術向上のためのワークショップ及び審判員研修会を開催しており、多くの審判員の参加をいただいています。引き続き実利のあるセミナー開催に努めてまいります。

質問 7 : 競技会終了後の審判への質問は受け付けてもらえるのか。

成績発表後、競技会の審判従事時間内であれば、お気軽に質問してください。

質問 8 : 全日本の審判を外国人にできないのか。

もし、外人審判員 = FEI 資格保有者でそろえるとなると厳しいです。財政面の理由もありますが、現在の全日本は、国内大会として開催されているため、もし外人審判員を必要人数招聘する場合は、海外の大会がオフシーズンでないとなかなか集まりません。また、経費面からみても、現在のスケジュールですと相応の人数（最低 6 名以上）を招聘しなければならず、参加料を大幅に値上げしなければ開催できません。また、国内競技の最高峰の大会で日本人審判員の採点の機会をなくすことは、長い目で見れば国内審判員の資質を低下させることになると考えます。

ただ、日本人審判員のレベル向上を目指し、FEI 審判員による審判研修会など引き続き国内審判のスキル向上に努めて参ります。

質問 9：2023 年度の全日本馬場 Part2 で出番の発表が遅かった。せめて 1 週間前に暫定でいいので発表できないか。

選手が早めの準備ができるように極力早く発表ができるようにしていきたいと思いますが、競技会によっては、主催者だけで進められない要因が発生する場合があることをご理解願います。

特に、現行のように 3 面並行実施の場合、単純な抽選では対応できず開催の当該週まで出番の調整を行うことがあります。これは、参加選手側の調整も必要となるため、調整にかかる時間が主催者側だけではコントロールしきれない場合があります。暫定とした場合に、変更情報を得ることができなかった人の不利益を自己責任とするには無理があると考えています。

質問 10：フォトセッションの表彰式でのリボンの付け方、馬主へのホスピタリティなど配慮できないか。

コロナ禍もありフォトセッションをしてきましたが、今年度より表彰式を再開します。入賞した選手、関係者を最大限称えられる形式に改善していきたいと考えています。

馬術競技は馬をパートナーとする唯一のスポーツですので、競技馬の所有者の存在を無視しての馬術競技会は存在しません。すべての馬関係者の顧客満足の質が上がるよう競技会運営を進めていきたいと考えています。その一環として馬主へのホスピタリティもどのようなことができるのか検討を進めてまいります。

質問 11：全日本ジュニア馬場で自由演技課目進出を全頭認められないのか。

決勝の進出人馬の選出方法については、自由演技の活用も含め議論があるところですが、スポーツであり競技である以上、ジュニアとはいえ一定レベルでの選抜は必要であると考えています。

質問 12：（御殿場）競技会期間中に天候によって競技場の変更はできないのか。

会場だけでなく、人員の配置変更、タイムテーブルの取り合いもありますのでその時々状況によります。ただし、これまでこのようなオペレーションはしておりませんので、天候による競技場変更についても検討してみたいと思います。

質問 13：ヤングライダー課目で下乗りが禁止されているが、当日以外の他の者の下乗りを認めてもらいたい。

2024 年度より、競技会前日までは下乗りを認める方向であります。

（全日本ジュニア）2024 年度ヤング、U30:当日のみ下乗り不可に変更

質問 14：（御殿場）丸馬場が臨時で増設されたが、運用時間など含めて競技進行とのバランスもとりながらさらなる運用改善を願いたい。

競技場の準備運動馬場内に設置されていることも考慮して引き続きより良い運用を検討していきます。

質問 15：（御殿場）競技場のフットイングコンディションを改善願いたい。

定期的に施設所有者と会場整備についての競技を行っています。限られた会場資源の中で選定しなければならず、どこ施設も潤沢な資金があって運営されているものではないことから、提供される環境を可能な限り整備し準備してまいります。なお、御殿場につきましては、2024 年度より馬場の改修が進められる方向で話が進んでおります。

質問 16：御殿場競技場のみでの開催ではなく他の競技場の活用はしないのか。

競技運営面だけでなく、予算面、人員面など多面的な要因が競技会会場の選定には影響します。引き続き、競技場の選定は様々な方向から検討を進めていきます。

現在の規模で行う全日本大会が開催できる会場は全国でも限られます。加えて、開催経費として会場借用に係る費用、会場地を起点とする役員旅費などを考えると最も経済的に運営できるのが御殿場であり、今後 JRA 馬事公苑を使用した場合の経費によっては、会場として借用することも増えるかもしれませんが、3 面同時進行の運営についてはシミュレーションを行って対応したいと考えます。

質問 17：ジャッジの点数がライブで表示できるようにできないか。

2023 年度より一部の競技では、ライブストリームでオンタイムスコアを表示しております。全競技（フリースタイル含む）での運用は、技術的・経費的・人的課題解決も必要なため、環境が整い次第運用できるようにしたいと思います。

質問 18：ドーピング検査などに関する知識の勉強する機会を設けてほしい。

選手のインテグリティレベル向上を目的とした講習会を検討しております。

質問 19：外国人審判を招聘した際に、ディスカッションの機会を設けてほしい。

競技会期間中の限られたスケジュールの中となりますので、各種調整が必要ですが前向きに検討をしたいと思います。時間的な余裕ができるときにはそういった機会を設けてもよいと考えています。